

## 第7回「臼杵市の未来を考える中学生と市長との意見交換会」

日時：令和6年10月9日 10:00~12:30 (3.4限目)

場所：臼杵市立南中学校 体育館

- 目的：1. 自分たちが暮らす臼杵市について、自分との関りや興味・関心のあることや地域での取り組みを参考にすることで、臼杵市の魅力を再発見し、町おこしの方法を考える。
2. 総合的な学習の時間と家庭科を関連付け、その成果として、これまでの学習した内容を工夫して相手に伝わるように発表する。
3. 自分たちで調べて考えた内容を市長と意見交換する中で、探究的な課題としてさらに発展させ、今後の臼杵市について考え続ける態度を育成する。

地域の未来を担う子どもたちに臼杵の現状や魅力、未来像を考えてもらおうと、平成30年から始めた

「臼杵市の未来を考える中学生と市長との意見交換会」

今年は、10月9日に南中学校で開催され、全校生徒35名が総合的な学習の時間の中で、自分たちが調べて考えた内容を『食料・飲料水自給自足チーム』『エネルギー自給自足チーム』『廃校利用Aチーム』『廃校利用Bチーム』『働き方改革チーム』『教育改革チーム』の6チームから市長に提案し意見交換をおこないました。

(6チームからの提案タイトル・内容は右欄に掲載)



		生徒提案	市長回答
1年生	生きるための自給自足	<b>『食料・飲料水自給自足チーム』</b> ①有機野菜での地産地消率日本一を目指す ・家庭菜園の奨励 ・学校でも有機野菜を作る ・空き地を使って地区菜園の拡充  ②飲料水を自給自足(災害発生時) ・ZEROMASSWATER(ゼロマスウォーター) ※太陽光パネルを利用して空気中の水を取り出す装置 ・雨水、井戸水の利用 ・給水スポットの設置	・家庭菜園をしている家庭へは市としても支援をしている。例えば、コンポストの導入補助金。 ・ゼロマスウォーターは砂漠や災害時に有効だが、採算がとれるかどうかなどが導入に向けた課題があるが、孤立するリスクのある集落への導入について検討していきたい。 ・井戸水は、飲み水としては難しいが、生活雑排水としてなら使えるのではないかと考え、調査をしている。 ・飲み水の備蓄は最初の3日は自分で備え、4日目以降は公助が届き始める。 ・社災センターに大きな備蓄倉庫もあり全国からの支援の拠点にもなる。
		<b>『エネルギー自給自足チーム』</b> ①水力発電 ・災害時に備え、小水力発電で電力を自給自足 例：岐阜県郡上市の石徹白(いとしろ)地区 …エネルギー自給率230%  ②間伐材の有効活用 災害時の備えとして間伐材をストックして防災ストーブ(薪缶)を備蓄してはどうだろうか？ 地区菜園に防災ストーブをストックすると有効だと思う	・小水力発電…豊後大野市で田んぼの畔の水路を使ったものがあるが、臼杵市は平地が多く水の力が弱いいため、導入が難しいかもしれない。 ・間伐材の有効利用…家庭や地域での備えとしてやっていけるよう、市民に伝えていきたい。
2年生	廃校利用と観光	<b>『廃校利用Aチーム』</b> 旧豊洋中学校の廃校利用 ・旧豊洋中を観光資源化…※マリンスポーツを中心とした複合施設(宿泊施設やカフェ、海洋系の本を多く取り入れた図書館や研修施設、イベント広場やマリンスポーツの体験活動など)	・実はオオツカダイゼルが船のエンジンの組み立て工場として、使いたいと話がある。 ・ホーバークラフトのエンジンの管理もここで行う。
		<b>『廃校利用Bチーム』</b> 旧野津高校の廃校利用 ・いかにして毎日人の流れができるのか ・自然豊かな市民図書館 ・景観をよくするためのいこいの森 ・教室棟を図書館や宿泊施設、駐車場を森のような公園に、福祉実習棟は災害時の炊き出しや備蓄庫など。	・毎日たくさんの方が来るのは非常に難しい。 ・土日祝日に開放し、未就学児が室内で遊べるようになり、子育て世代のニーズを捉えた。 ・夏祭りなどのイベントへの貸し出しを行った。 ・図書館ほどの規模ではないが、1階の飲食ができるスペースに漫画や小説を置いている。
3年生	働き方改革と教育改革	<b>『働き方改革チーム』</b> ①ジェンダーギャップ解消(女性が働きやすいまち) ・パートタイム勤務やフレックスタイム制の導入 ・男性の育児休暇促進 ・政治分野における女性の活躍  ②ワーク・ライフバランス ・業務や勤務体制の見直し ・残業時間の見直し ・短時間勤務制度の導入 ・休暇取得率の改善 ・フレックスタイム導入 ・福利厚生充実	・男女の役割、意識の問題をどう変えていくか →今までの固定概念を壊さなければいけない！ →パートナーの意識によるところが大きい ・女性の自己実現…男性も女性の自己実現・生き方を理解しないといけない ・臼杵市では、子育て世代のためにいろいろな支援を独自で行っており、男性と女性が共に働きやすい環境づくりをしている。(例：病児保育送迎支援)
		<b>『教育改革チーム』</b> ①不登校対策 ・学びの多様化学校→玖珠町に今年からできた全国で32校目、九州で3校目。(日課表 対話の時間、遊びや研究) ・生徒一人ひとりの個性を大切にする教育を目指す  ②学習内容の差別化(英語教育に特化) ●世界に通用する人材育成を目指す ●臼杵市=英語学習が進んだ都市へ ・学校に1人ALTを配置。 ・短期留学や姉妹都市交換留学、1年間の長期留学支援 ・英語に特化した小中一貫校をつくる ・臼杵高校を海外留学が一番近い高校に！	(安東教育長回答) ・人間関係プログラム…この中でいじめ解消に努めている ・地域児童支援コーディネーター、登校支援員の設置 ・玖珠町の学びの多様化学校はスタートしたばかりなので、様子を見ていきたい。 ・臼杵市に前段階みたいなもので、「きずな」というものがあります。各自ゆったりした勉強をしている(日記を書いたり、算数の勉強をしたりしている) ・英語でしゃべれるだけでなく、英語で何を伝えたいのかを考えることも重要だと思う。 ・臼杵市では独自の取り組みとして、小学校3年生から英語センター教員を各学校に配置している。 ・中学3年生については、英検の受験費用を補助している。